知恵の樹

No. 186 2014. 8. 21

町田の図書館活動をすすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12　増山方

〒194-0022　FAX　042-722-1243

「市民アーカイブ多摩」に、お出かけ下さい!

ネット・ワーク市民アーカイブ代表　　杉 山　弘

試行錯誤の末、鶴川村大蔵の地にようやく起ちあげた図書館に、浪江虔さんは私立南多摩農村図書館と命名した。1940（昭和 15）年、「滅私奉公」の精神が奨励された時代だったのだから、あえて「私立」を冠したことには、きっと浪江さんなりの意図が隠されているのだろう、と私は考えている。その当否はさておき、私たちがこの春に開館した「市民アーカイブ多摩」も、紛うことなき「私立」だ。もっとも、私たちに「私立」であることに拘りがあったのではない。自治体や諸機関などにアーカイブ開設をもちかけては、さんざん断られつづけた挙句に、自力でつくらざるを得なかったのだ。

「市民アーカイブ多摩」は、多摩モノレール線、もしくは西武拝島線の玉川上水駅から徒歩 10 分ほどの雑木林に囲まれた一角にある。収蔵しているのは、いわゆる市民活動資料で、要するにさまざまな市民運動や市民活動のなかから生まれたミニコミや機関紙、ビラやポスター、パンフレット、さらに文集や報告集など、およそ 1200 タイトルが揃っている。それぞれが、市民や生活者の眼がとらえた現代社会のさまざまな課題を語っているし、また資料群総体としても、その時々の市民社会の動静を映し出している。

収蔵資料のうち、試みに町田市域にかかわるものを検索してみると、以下のタイトルが拾えた。

『いま　むかしーまちだ語り手の会　会報ー』／『丘の町のたより』／『かんぞう』／『消費生活センターだより』／『すこ～れ』／『たぬき山通信』／『知恵の樹』／『つくつく通信』／『東西南北』／『とびたつ会　ニュース』／『のんびりGC』／『東アジア社会教育研究』／『疋田教諭分限免職取消訴訟ニュース』／『ペットタウンまちだ』／『Volontiers!　ぼろんてぃえ』／『MIFA（まいふぁ）』／『町田市立自由民権資料館紀要　自由民権』／『まちだ中央公民館だより』／『まちだ風景』／『まちだボランティア・センターだより』／『まちびと』／『民権ブックス』／『La Mano 通信（ラ・まの通信）』／『連句通信　風時計』／『和光学園報』

あれが抜けている、これを忘れていると、お気づきの方は、ぜひご一報ください。また「市民アーカイブ多摩」を見学ご希望の方には、喜んでご案内いたします。近くを流れる玉川上水の散策と組みあわせて、ご計画されてはいかがでしょうか。

（会　員）

＊「市民アーカイブ多摩」
開館日時：毎週水曜日、第 2・4 土曜日
午後 1～4 時
TEL＆FAX（開館中）：042（536）5535
（閉館中）：042（540）1663（平日昼）

まちだ雑学大学　第 48 回講座

暮らしの中に図書館を！ ― 賢い市民の図書館活用術 ―

講師　守谷　信二 氏

去る 7 月 24 日（木）2 時から町田市民フォーラム講習室において、本会会員守谷さんの講演会があり聞いてきました。雑学大学でのまとめた講座概要（主催者HP）を参考に、抜粋してご報告します。

「まちだ雑学大学」は、2010 年、東京・町田で開講した「市民講座」です。この大学には専門はありません。 それぞれがもっている経験や体験が そのまま専門なのです。さまざまな分野のことを 互いに教え、教わるのが このまちだ雑学大学です。
雑学の学習や実習活動を通じて、心豊かな生活にすこしでも寄与できればというのが開学の理念です。　　（HPから）

はじめに、図書館の司書は、「本と人を繋ぐ仕事」として、サービスカウンターに立っていたころのエピソードをいくつか紹介。利用者の断片的な言葉からでも求める本を探し出し、手渡すことが司書の役目だということ、喜んでくれた利用者との交流などを語られ、その中の一つ、女子高生に手渡して喜ばれた茨木のり子の詩集『自分の感受性くらい』(花神社・1988 年）の詩を、朗読された。

１．公立図書館を利用しよう

図書館員（司書）の仕事は、本とそれを必要とする人を結ぶこと。そうした遣り甲斐のある仕事に魅せられて、図書館業務を 29 年間一途に行ってきた。

その間には、現在の町田市立中央図書館や市民文学館、金森図書館、鶴川駅前図書館を建設する仕事にも携わった。

図書館は利用すると本当に便利だし、支払った税金分くらいすぐに取り戻せる。

では、図書館を自分に役立てるように使うためにはどうすれば良いのか。

図書館法第 17 条に「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない」とあり、市民は誰でもが無料で図書館を利用できる。

２．目的に応じた多様な利用の仕方

(1) 施設や設備の利用

(2) 特定の本や情報の利用

「この本が読みたい！ or このことを知りたい！」など明確な目的を持って図書館を訪れる利用法。

「課題解決型図書館」などと言われ、こうした利用が図書館本来の利用であるかのようなPRがされる場合がある。目指す本や情報をピンポイントで探し手に入れられるのは、確かに図書館の大切な機能である。インターネットは、図書館の蔵書に限らず、様々な情報を自宅に居ながらパソコンで簡単に検索できるが、手軽で、思わぬ情報を手に入れることが出来る反面、検索の仕方次第では情報が多すぎたり、出典が怪しかったり、いつの間にか情報が消えていたりといったマイナス面も多い。図書館資料の検索も、検索の仕方次第で、所蔵されているのにヒットしないことも多い。知っておくと便利な検索サイトを資料として配布、検索するためのテクニック等を説明。

そして、図書館の活用法として ①「予約・リクエスト制度」と ②「レファレンスサービス(調べものの手伝い)」を紹介。

①予約状況を調べ所蔵していなければ多くの場合、購入、または他市図書館から借り受けて提供していること、

②活用の際には、どんなことを、何のために、いつまでに調べたいのかを具体的に相談して欲しい。

(3) 知的好奇心を満たすための習慣的利用

好奇心を満たすため「何か面白そうな本はないかな！？」と定期的に図書館を訪れる利用法。これこそが図書館利用の醍醐味であり、王道である。自分の知らない世界（未知の著者や分野）に出会って、それまでの自分が少しずつ変化し、成長できるきっかけが得られる。古書店、BOOK OFF と違い図書

館は新しい本も古い本も、あらゆるジャンルの本、入門書から専門書までテーマごとに整理してあり、専門の司書がおり、相談に乗って探してくれます。

３．図書館を習慣的に利用するために知っておくと便利なこと

①中央図書館配置図（配布資料）を参考に、どこにどんな図書が配置しているかを説明。特に、いつも新刊がある工夫がなされている新刊棚や多くの人が関心を寄せている返却棚を覗いて欲しいと力説。
②図書館の本は日本十進分類法（資料配布）で並べてあり、関連する図書が別の書架にもある。
③地域・行政資料は豊富にあり、市政情報課とリンクしている。
④図書、雑誌以外のパンフレットやリーフレット／ＡＶ／地図／マイクロフィルム／デジタル情報、全国の電話帳 etc.ある
⑤町田は毎週木曜日、選定会議で現物本を見ながら購入本を選んでいる。2012 年度、書籍発行点数 82,200 点のうち、中央購入冊数 19,977 冊（24.3%）・全館 63,335 冊。

第2の選書としての除籍→汚破損したもの、データが古くなったもの、利用頻度の落ちたもの（2012 年度・中央 30,620 冊・全館 58,183 冊）

図書館の資料収集：2012 年書籍発行点数 82,200 点で中央購入冊数（2012 年度）19,977 冊（24.3%）、全館 63,335 冊。毎週木曜日に選定会議（中央週平均 400 冊～450 冊位）⇒ 選定基準、地方・小出版社の本の収集

４．町田の図書館事情

・図書館数（文学館含む8館・蔵書 110 万冊・政令市特別区を除く同規模自治体 26 都市中 13 位）

・移動図書館（BM）３台６４か所／予約資料受取場所（南町田・忠生・小山）

・利用実績（2012 年度・個人 4,125,248 冊・9.68 冊/人、町田市民のみ 9.15 冊/人・同規模自治体中で 4 位）

・資料費（図書費 2012 年度決算額 82,609 千円、2013 年度予算 72,354 千円・175 円/人、多摩 26 市中 25 位・多摩平均 325 円）

・ネットワーク（市内 → 他市の図書館 → 都立 → 国会）／他市との相互利用協定（相模原・八王子・稲城・調布・府中・日野・多摩・川崎）／大学連携（和光大学）／専門図書館（無窮会図書館

→ 玉川学園 8-6-13/神道・国学・国語国文・国史・漢籍）／町田市立図書館の職員体制（2012 年度 176 人中常勤 56 人・司書率 81.3%）⇒ 非常勤職員の増大／図書館が直面する課題

５．図書館活用７ケ条

第1条　まず、図書館に行ってみよう。
第2条　目指す本や雑誌がなかったら、諦めずに職員に聞こう。
第3条　レファレンスサービスを上手に使おう。
第4条　頼りになりそうな職員を見つけて、名前を覚えて顔見知りになろう。
第5条　「図書館はみんなのもの」であることを忘れずに。
第6条　図書館利用は目的達成のための手段。自分らしい目的を設定してみるのも面白い。
第7条　「身近に図書館が欲しい！」という声を挙げよう。

６．最後に 1866 年（慶応２年）福沢諭吉「西洋事情」より

「西洋諸国の都府には文庫あり。ビブリオテーキと言う。日用の書籍、図画等より古書珍籍に至るまで万国の書みな備わり、衆人来たりて随意にこれを読むべし」。

日本に公立図書館の存在が紹介されて、たかだか 150 年。今でも、いわゆる先進主要国の中では、わが国の図書館事情は最低ランク。

人間らしい生活を営むために不可欠な図書館を発展させるのは、市民自身が日常的に図書館を利用し、利用して良かったことも悪かったことも声に出して行政に伝えること

〈アンケートから〉

・図書館の利用法が判り、大変良かった。
・もっと若い時に聞ければと思いましたが、今からで

ももっと楽しみたいと思います。
・図書館が大好きで大変参考になりました。特別な目的がなくても館内にいるととても落ち着きます。
・今日の話は大変参考になり、図書館の見方が変わりそうです。
・図書館は市民の読みたい本を提供したがっていることが判った。
・これから読みたい本を「探すため」の訪問もできることが判った。
・利用日を休みなくして欲しい。海老名は全日、厚木は月2休み。　（M）

一人のアメリカ人が日本語の劣化をこんなに憂えているのに、大多数の日本人が簡単に騙されていていいのか？

水越規容子

6 月 3 日(火)午後、飯田橋の出版会館にて、国際子ども図書館を考える全国連絡会総会が開かれ、アーサー・ビナードさんの講演を聞くことができた。講演タイトルは「児童文学ゴックン」。

とても示唆に富んだお話だったので、ぜひ簡単に紹介したい。

言葉のすり替え

ビナードさんは冒頭、最近飛行場で聞いたアナウンスの話から始めた。それは天候のため出発が1時間遅れた搭乗予定機が、何時に出発できるかを知らせるものなのだが、「○○機の新しい出発時刻は6時半です」と言ったのだそうだ。遅れたことを謝るでもなく、遅延という言葉も使わず、「新しい」というプラスのイメージの言葉で言い換えることで、事実をごまかしているアナウンスの巧妙さ。この言葉の言い換えは、とてもよく練られたもので、多分広告会社のコピーライターが作っているのではないかという。これを利用すれば、原稿の締切を過ぎても、編集者に「新しい入稿の日時は明後日です」と言えばいいのだ、と笑わせた。

もう一つ、最近の新聞報道であまり使われなくなった言葉に「再稼働」がある。再稼働と言えば原発。最悪のイメージがついている。代わりによく使われているのが「運転再開」。どちらも同じ意味だが、使われ方から、そこに付与されたイメージには雲泥の差がある。東京にいると、よく人身事故のため「ただいま列車は運転を見合わせています」という場面に遭遇する。ビジネスの約束時間に間に合わないのはとても辛い。ところが「只今運転を再開しました」とアナウンスがあると、「あー助かった」と思わず神様・仏様に感謝してしまう。そのくらい、ありがたい言葉なのだ。（ビナードさんは膝をついての大げさなジェスチャーで笑わせた。）

この言葉を原発に使うとは、なんと巧妙だろう！

こうして正反対のニュアンスの言葉ですり替えることによって、事実を見えなくしてしまうのだ。言葉のすり替えが行われることで、日本語の劣化がおこる。日本語の劣化が起こると翻訳も難しくなる、彼にとっては死活問題だ。

積極的平和主義の意図的誤用

ビナードさんがもっとも怒っているのが、安部首相の使う「積極的平和主義」だ。この言葉はもともと平和学の研究者ガルトュングによって提唱されたもので、国際的にもその定義が定着している。ただ戦争がない平和の状態を享受する「消極的平和主義」に対して、紛争や戦争の原因となる貧困、抑圧、差別、環境破壊などを積極的に解決して平和を目指していこうとするのが、積極的平和主義だという。これは、安部首相の言っていること、行おうとしていることとは、まったく相容れない。

詩人であるビナードさんは、言葉の音やリズム、その意味、使われ方などにとても敏感だ。このような、意図的とも思える言葉のすり替えに、我慢できないのだ。こうしたすり替えを放っておくと、言葉が劣化し、日本語に対する感性が麻痺し、やがて日本語そのものの消滅をも招来してしまうかもしれない。児童文学にかかわる者として「どうやって日本語の劣化をとどめるのか」、ビナードさんの熱い闘いは続く、そして私たちも同じ問題意識を持ち、しっかりとそれに呼応していきたいと感じた午後だった。

他にも、『雨ニモマケズ　Rain Won't』(今人舎)を出版した意図などを丁寧に語ってくれたのだが、それはまたそれで字数が要るので割愛。

（会　員）

第1回 世田谷教育推進会議

「世田谷発～これからの魅力ある図書館をめざして」 に参加して

山 口　　洋

去る8月9日(土)13時30分から16時すぎまで、国士舘大学世田谷キャンパス内ホールにおいて表記の会が開催された。

これは、世田谷区の教育推進会議が「図書館」をテーマに行ったもので、第1部は、片山善博氏(慶応大学法学部教授)の基調講演「図書館と地方自治」、第2部は「これからの魅力ある図書館をめざして:図書館を知ろう！学ぼう！つながろう！」というシンポジウムで、糸賀雅児氏(慶応大学文学部教授)の司会のもと、猪谷千香氏(ジャーナリスト)の図書館報告と、糸賀氏の学校図書館報告、そして片山氏と保坂展人世田谷区長を交えてのデスカッションが展開された。このシンポジウムでは、聴衆に手渡された資料(青い封筒と黄色とピンク色のチラシ)を利用して、壇上からの質問に色で答えるという試みがなされ、会場からの意見を取り込む工夫もなされていた。参加者は280名を越える。

欠かせない公立図書館の人と財政面での充実

片山氏の基調講演では、公立図書館が無料であることの大切さについて、一人一人の個人が知的に自立するために必要であり、それは格差をなくすためにも必要であり、学校図書館においても同様であると指摘された。

また町村合併により郷土の情報、とりわけ有形無形の文化や歴史に関する資料が失われつつあり、これを図書館が受け持つべき急務であること。図書館が貸出以外にも出来る取組としてデンマークのマイノリティー対策を図書館が受け持っている事例(移民向け講座)を提示、日本では縦割り行政が阻害するがそれを乗り越えれば、図書館にさまざまな可能性があることを歯磨き指導(保健師と司書の連携で読み聞かせや調べ学習への発展)や放課後の学童保育等の児童クラブへの展開(指導員と司書の連携で子どもたちに読書の切っ掛けづくり)として指摘された。そのためにも、公立図書館の人と財政の面での充実が不可欠であるという。

また、図書館は人である以上、その成果は長い目で見なければならず、司書等の専門職の冷遇は、組織の損失であり、職員の非正規化、業務の外部化は、細切れの雇用契約、低賃金化、雇用の不安定さを生み出している。また図書館費用の削減は、見た目には変化を感じにくいが、長年にわたると図書館が色あせ、その弊害がじわじわと表れる。特に地方の財政難を理由に図書館費が軒並みカットされるようになってきた。これは1990年代のバブル崩壊後、借金による公共事業が推進されたが、そのとき図書館費は増額されることは無く、かかる公共事業による景気対策が失敗すると、地方交付税も減額され、その結果、自治体の財政が一律カットされ、もともと増えてもいない図書館費が一緒に削られるという理不尽さが横行でもある。これには国の責任もある。

そこで自治体は、地域住民を主役とし、その支払う税金で、その願うサービスを実現するのが使命であるという原点に立ち戻り、まず住民の意見をしっかり聴くことを重視すべきであり、それが民主主義であると主張され、日本ではまだまだその点が不十分(地方自治の未熟)であると指摘された。

そのためにも市民が意見を言える場が必要であり、アメリカにおける地方自治の事例も紹介された。

シンポジウム「これからの魅力ある図書館をめざして～図書館を知ろう！学ぼう！つながろう！」

片山氏の鳥取県知事時代のエピソードから、学校図書館を充実させるには、まず学校司書の配置など人の充実を図ることや、図書館協議会の設置と活用が大切であることなどが指摘された。

これを受けて、保坂区長は、学校図書館や協議会(世田谷区には設置されていない)について前向きな発言をされた。後日、記録化される可能性もあるので、その時には改めて紹介したいと思う。　(会員)

新刊紹介

この夏、浪江虔さんと八重子さんに因む本の刊行が相次いだ。

ノンフィクション作家の田中伸尚さんによる『未完の戦時下抵抗－屈せざる人びとの軌跡－』が7月に、また8月には刊行委員会編の『浪江虔・八重子 往復書簡』が出版され、鶴川の地に刻まれた浪江虔と八重子の軌跡や二人の意志をあらためて確かめておきたいという機運が、にわかに高まりつつあるのをぼくは感じる。

田中伸尚著／岩波書店
四六判・上製・330 頁
定価（本体 3,200 円 ＋ 税）
ISBN978-4-00-024871-6 C003

『未完の戦時下抵抗』は、2011 年から 13 年にかけて雑誌『世界』に連載されたものを1冊にまとめたもので、田中が描く5人の「屈せざる人びと」のうちの1人が浪江虔で、「図書館に拠る 浪江虔」という章が設けられている。連載中、すでに読まれた方も少なくないだろうが、断続的にではなく、一息に読み通すことで得られる発見があり、また筆の運びに著者の逡巡の跡さえ見いだすことができるのは、やはり単行本ならではだろう。

刊行委員会 編／ポット出版
四六判・、上製・352 頁
2,400 円 ＋ 税
ISBN978-4-7808-0209-2 C0095

浪江虔が残した資料群に一度分け入ると、その膨大さとは裏腹に、ある欠損に気づく。オルグとしての浪江が鶴川村にやってきた頃の資料や、小作争議の支援やその挫折をへて農村図書館建設へと向かう時期の資料が見当たらない。浪江虔と八重子の長女、野沢陽子さんが大切に保存されてきた文書の山を、あれこれ探してみても、昭和初年から戦時期にかけての資料は、ほんの一部を除いて見つけることができない。いや正しくは、見つけられないのではなく、それは存在しないのだと思う。「特高」による手入れに警戒を怠らなかった浪江が、それらを周到に秘匿、処分したのか、あるいは治安維持法違反の科で二度逮捕された折に、押収されてしまったのか、いずれかの理由でこれらの資料は失われた、とぼくは見ている。

こうした事情があるゆえ、浪江虔が拘置所や刑務所に拘禁されていた折りに、八重子と交わした、合わせて 170 通を超える書簡が、2人の内面を知るためのこの上ない手がかりになる。田中も『未完の戦時下抵抗』において、この往復書簡への深い洞察を試みている。だからこそ、10 年の歳月をかけた解読作業をへて、『浪江虔・八重子 往復書簡』が刊行されたこと、そして誰もがそれを手にとり、眼にすることが可能になったこと、このことが何よりもぼくには嬉しい。

（杉山弘／町田市立自由民権資料館）

すすめる会主催　竹信三恵子さん講演会 **「しあわせに働ける社会をめざして！」**

2014 年 9 月 13 日（土）午後 3 時～5 時
町田市立中央図書館ホール（6F）
問合せ：　山口　090－4434－5128
直接会場へどうぞ！　無料

雇用問題に造詣が深い竹信三恵子さんに「日本の雇用問題の現状」について、講演していただきます。

正規・非正規の格差、男女の賃金差別、若い世代の雇用劣化、官制ワーキングプアなどの現状を取り上げながら、日本の雇用問題についての根源に迫るお話をしていただく予定です。

町田市立図書館は、教育委員会の直営を続けてはいますが、非常勤職員が常勤職員の数を上回っており、賃金・労働条件にも大きな格差があります。

「住民サービスは、住民の経済力にかかわらず最低限の人間的・文化的生活を保障する安全ネットだ。その意味では、実は公務の本筋といってもおかしくない。こうした視点から見れば、『行政権限の行使』は、住民の生活を守るという本筋を進めるための道具にすぎないのに、そちらは『正規』として高い処遇を受け、本筋は不安定化していく」（『家事労働ハラスメント』p.172）。　*皆様の参加をお待ちしております。*（T）

第 15 期 図書館協議会 第9回定例会　於:中央図書館ホール
2014 年 6 月 26 日(木)15 時～17 時

【館長報告】

1　教育委員会（6 月 5 日）

＜議案審議事項＞　町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱等及び解嘱等について

＜報告事項＞

・第二次町田市子ども読書活動推進計画　2013 年度取組状況報告書／図書館関連の重点取組み

(1)各イベントでの「子供読書活動」の推進で「まちだとしょかん子どもまつり」について報告

(2)学校図書館運営研修、新任教諭への図書館研修／・耐震補強工事に伴う木曽山崎図書館の臨時休館について/休館中に実施するサービス内容と工事の概要について

・ことばらんどの夏休み企画展 「1ねん1くみ1ばんサイコー！　後藤竜二×長谷川知子展」の開催について／　関連イベントあり

2　第2回町田市議会定例会

＜文教社会常任委員会＞行政報告:耐震補強工事に伴う木曽山崎図書館の臨時休館について

【委員長報告】

1　第2期町田市生涯学習審議会／委嘱書伝達式、委員自己紹介、委員会についての説明

2　全国図書館大会（日本図書館協会主催）について／10/31（金）、11/1（土）開催／1日分科会「市民と図書館」は図友連と共催。午前:「図書館協議会」、午後:「図書館とマスメディア」／午前は山口委員長、午後は手嶋元館長がパネリストとして参加

3　水戸市シンポジウムの報告

5月 31 日（日） 茨城県総合福祉会館にて「指定管理制度で図書館はよくなるの？」（主催:水戸市立図書館を育てる市民の会）が開催された／110 名の参加／山口委員長がパネラーとして図書館協議会の意義を発言／市民が指定管理制度のどこが問題か、公立で運営することの意味を議論し、本質をおさえることが大切／行政側のしっかりしたビジョンがない指定管理は危険。

【協議事項】

1、図書館評価について

第2期の図書館評価の評価案については第5回で提案され検討を重ねてきている。

＜確認事項＞

・第2期の外部評価のスケジュールの確認として、年度内に用意ができる項目については 1 期の時より早い時点で評価を依頼し、残りは準備でき次第。

・施策の評価は図書館事業計画の中間年に協議会としてコメントを出すことになるので、2つの評価を行うことになる。

・新評価シートは図書館と協議会で記入後そのままの形で公開する。

・市民に公開する上で市民に分かりやすいようにどのように工夫するかは検討中。

・業務内容、特記すべき取組の記述を読めば市民が図書館を理解できるようなものであることを期待。

・実施要項が必要。

2、1 期の外部評価が 7 月からスタート

スケジュールと分担について確認　（清水陽子）

★次回第 10 回定例会は7月 24 日(木)15:00～　中央図書館 6 階ホールにて　傍聴自由です。

あとがき　町田子ども読書活動推進計画に思う･･･

第二次推進計画が、最終年の5年目に入り、2013年度の推進状況について検証する会議が6月27日に開催された。その席上、第三次策定委員会が学校部会と家庭・教育部会に分かれて進められており、最終会議が開かれるので都合がつく人はアドバイザーとして傍聴して下さい、という呼びかけがあったので2つの部会とも出席した。委員は全て市の子ども関係部署の職員。熱心に子どもの読書について考えてくださっているのだが、目に見えることに重点を置いた第二次と余り変わらぬ策定に正直ガッカリ。ほとんど出来上がった状態で、意見を求められ、かなり厳しいことを言ったが、むなしさが付きまとう。なぜ、最初から、読書活動の現場で日々子どもたちや図書館と接している市民を委員に加えないのだろうか？市の縛られた枠組みの中で、数値を主な判断材料に策定しているではと思えるほど、様々な目に見えないソフト面が置き去りにされている。謝礼の予算がないという問題から市民を委員に加えないのであれば本末転倒だ。

かつて、夜開かれた学校図書館充実検討委員会に2年間図書館協議会の委員として各関係部署の人たちと会議を持ったことがあるが、交通費も資料のコピー代も全て持ち出しで、謝礼のこと等論外だった。

読書環境を良くしたいと永年活動している人たちが計画の段階ではじき出され、結果、活動推進の核となる人の問題をと願う市民の声が、相変わらず反映されていない5か年計画が策定案として出されようとしているその事に、町田市政全般の文化と教育における施策の貧しさを感じない訳にはいかない。　（M⁴）

ひろば

定例会　6/26(木)

16:30～185 号印刷(伊・多・丸・増・桃)
・18:00～20:20 中央図書館中集会室

出席: 市川、伊藤、久保、清水、鈴木真多田、高橋、手嶋、増山、丸岡、桃沢、守谷、山口、

● 町田市生涯学習審議会、全国図書館大会経過についての報告(山口)

● 「第4回まちだとしょかん子どもまつり」第１回開催(6/24)。今年度も全館で、3/26(木)～29(日)実施。これまで参加した貸出登録団体に呼びかける形で実行委員を募っていたが、団体で参加する力がないグループが出てきた。地域館に個人登録しているおはなしボランティアを抱き込んで、地域の人が地域館をサポートする形で祭りに参画できるようにして欲しい旨要望しているのだが、なかなか実現しない。大変なことなのかなあ。(増山)

● すすめる会からの「としょかん子どもまつり」実行委員は、清水陽子さんにお願いする。

● 町田で図書館に関わる活動グループは、すすめる会にぜひ加入して欲しい。子どもまつりも、すすめる会(市民)と図書館の協働になれば、もっとスムースに行くのでは？

● 会報について・・・図書館関係の情報を知る手掛かりになっているとの声も寄せられている。無理のない範囲で、発行し続けていきたい。

● かえで文庫より・・・早々と成瀬台小学校に引っ越しをしたが、まだしばらくセンターは使えるとのことで、情報の伝達の悪さを少々問題視している。

● 鶴川駅前図書館の自動貸出機、予約棚の変更について・・・図書館閉館後から施設閉館22 時までの防犯上や開架の問題も解決できていないことから、計画案が変更。

７月例会　7/.24（水）18:00～19:55
中央図書館６階中集会室
出席: 市川、澤瀉、久保、清水、鈴木真、多田、高橋、手嶋、増山、丸岡、桃沢、守谷、山口、

● 子どもまつり・・・7月末迄に、参加希望日・場所を提出。次回実行委員会は、8/28(木)14:00～。

● 図書館協議会・・・非常勤嘱託員の要綱一部改正について、ICタグの進み具合と問題点について、自動貸出＆自動予約貸出について、5年目を迎えた外部評価について等々、詳細に報告。(山口)／様々な図書館における改革や問題点について意見を述べ合うが、協議会に何ら諮らないで決まってからの事後報告では、利用者の意向は何も反映されないのではないか、という懸念あり。

2014 年度　第６回 **文学館(主催)で楽しむ**
おとなのためのおはなし会
9月 18日(木)10:30～11:30
町田市民文学館　2F大会議室
プログラム　(通算 87回)
＊町田ゆかりの作家「水沢　周」　佐羽悦子
＊「ざしき童子のはなし」(宮澤賢治作)多田美惠子
＊「やせたメンドリ」(イタリアの昔話)　蛭田昌美
＊「ねずの木」(ドイツの昔話)　　西村敦子
語り手はNPOまちだ語り手の会会員
直接会場へどうぞ！　無料　**保育有**

● 第三次子ども読書活動推進計画(案)について・・・学校部会と家庭・教育部会に分かれた第三次策定委員会が、8月中旬に一つにまとめられ、9～10 月頃、市民意見を募集する。是非関心を持って、コメントを出して欲しい。(p7あとがきに)

● 多摩地区市町村図書館長会で、町田の尾留川館長が、児童サービス研究会の会長に。多摩地域における読書ボランティアの調査をする。

● 竹信三恵子さん講演会(手嶋)・・・図書館に特化しないで、日本でいま起きている雇用問題について話をしてもらう。皆で講演タイトルを考え、最終的に講師に打診してチラシ作成に入る。／9/13(土)『しあわせに働ける社会をめざして！』
受付 14:30～　役割分担を決める。(6p参照)

● 『浪江虔・八重子往復書簡』刊行(6p参照)

● その他
・8月の定例会は、21 日(木)18:00～夕涼み会
・9～2月はシステム更改準備のため中会議室は使用不可。定例会はホールで。
・東京学校図書館スタンプラリー(7/19～8/30)、各校1～7日開催。受験生の高校・学校図書館体験の一環だが、学校図書館に興味のある人なら誰でも参加OK。町田市は、成瀬高校と小川高校が参加。　(次号にて報告)　　〔あとがきは7p〕